

1 都道府県別生命表について

(1) 生命表とは

生命表とは、ある人口集団の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が死亡する確率や平均してあと何年生きられるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標（生命関数）によって表したものである。

これらの関数は、男女別に各年齢の死亡数と人口を基にして計算されており、その関数値はある人口集団の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、ある人口集団の死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、ある人口集団の全ての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

(2) 都道府県別生命表

都道府県別生命表は、人口動態統計調査及び国勢調査のデータを用いて、5年ごとに作成しており、昭和40年(1965年)より通算して今回が11回目となる。都道府県別生命表は、死亡状況を都道府県単位で比較分析するために不可欠なものとなっている。

なお、都道府県別生命表に掲載されている全国値は都道府県の値との比較の観点から、各都道府県と同様の方法で算出しており、完全生命表の算出方法及び結果とは異なったものとなっている。全国における死亡状況を表したものとしては、完全生命表を用いるのが適切である。

(3) 基礎資料

平成27年都道府県別生命表は、人口動態統計(確定数)による日本における日本人の死亡数(平成26年～28年)及び出生数(平成25年～28年)、平成27年国勢調査による日本人人口(確定数)を基礎資料としており、平成26年～28年の都道府県別の日本人の死亡状況を表している。

(利用上の注意)

年齢調整死亡率

都道府県別に、死亡数を人口で除した死亡率(粗死亡率)を比較すると、各都道府県の年齢構成に差があるため、高齢者の多い都道府県では高くなり、若年者の多い都道府県では低くなる傾向がある。このような年齢構成の異なる地域間で死亡状況の比較ができるように年齢構成を調整しそろえた死亡率が年齢調整死亡率である。

都道府県別年齢調整死亡率は、都道府県ごとの年齢階級別粗死亡率をある人口モデル(昭和60年の国勢調査人口を基に補正した昭和60年モデル人口)にあてはめて計算されたものである。

詳細は、厚生労働省「平成27年都道府県別年齢調整死亡率」を参照。

表章記号の規約

減少数(率)の場合	△
計数不明または表章することが不適当な場合	…